富田林市文化芸術振興ビジョン策定委員会　第３回　議事録

日　　時	：令和４年１２月５日（月）１３時００分～１７時００分
開催場所	：富田林市きらめき創造館（Topic）２階　グループ活動室
委　　員	：中脇（委員長）、中野、花柳、山本、飯田、金、岡、塩見 ※敬称略
オブザーバー	：辻野、西村（以上、（公財）富田林市文化振興事業団）
事 務 局	：音羽、坂本、正木（以上、富田林市） 江藤、有田（以上、㈱地域計画建築研究所）
傍 聴 者	：３名

○会議次第

１．開会

事務局：（委員出欠確認）

：（会議公開の説明、傍聴の確認）

：（策定スケジュール変更の案内：期間は令和 5 年 5 月末まで、全 5 回）

：（素案の主な修正の説明）

：（配布資料の確認）

委員長：終了時間は17時と長くなっているが、意見交換の時間を確保するので、具体的な素案に対する忌憚のない意見をいただきたい。全体での話とグループに分けて詳細な話ができればと考えている。

：最初に、各委員から本日の会議に向けて、どのようなことを話したいかを一言いただきたい。

委員　：特にこれをという強い想いがあるというよりも、素案についてしっかり内容を検討し、理想だけでなく実現可能な内容にしたい。

委員　：理想的な素案だが、経済力があっての文化だと思うので、これだけのことが実施できるのか疑問に感じている。空き家に市外から人を呼び込んで税収を増やすことを考えなければできない。

：また、様々な場所で文化に触れることよりも、文化に精通した人を起点にすべきだ。平成 3 年に発足した文化振興事業団が一番詳しい団体であり、情報を集約し、事業団に聞けば何でもわかるというシステムづくりが必要ではないか。行政の課の１つとして事業団に任せてそこから発信しなければ、文化のまとまりがない。今は情報が錯綜している。

：文化財については、文化財課に質問しても知らなかった。富田林の歴史を知っておくべきであり、文化財課もこの委員会に入るべきだ。また、議会でも検討するのであれば議員も委員会に入るべきだ。歴史の資料館もあるべきだし、郷土文化のことに詳しい専門家もいる。古文書等の歴史資料も１箇所に集めたほうがいい。ビジョンで終わらず、リアリティのあるものにするためには、自分のまちにプライドを持ち、住んでい

るまちを好きにならなければできない。歴史的には近隣市も含めた南河内としてとらえるべきだ。

委員　：市が行うことと市民が行うことの整理がなかったので、市が何を推進するのかが明確になると良い。また、今までの事業を継続・発展させることと新しい事業の提案も明確にしてほしい。

：SDGs の話も出ていたが、文化芸術が他分野に寄与できることを再度考えたい。多文化共生や人権などに対しても、芸術文化が寄与できることを文言に入れたい。

委員　：私は高槻市に住んでおり、よそ者の視点で見ている。文化芸術には関心があるが、どこの市でも使えそうなビジョンではさみしい。富田林のアイデンティティが入ったものにすべきではと考えている。

委員　：事務局として立派な素案を作成いただいたが、私の所属する富田林市文化団体協議会は 73 年間活動してきたので責任の重さを感じる。今は個々の団体で活動しているだけで、コロナ禍でフォローもできていない。今回の団体同士のつながりやふれあいを重視するビジョンを見て、持ち帰ってもう少し広がりのある活動を考えたい。

：窓口的なことをすばるホールとするということだが、事業団に窓口が移るのか。教育委員会の立ち位置を聞きたい。どちらがいいのかわからないが、市の文化行政として 10 年計画のビジョンを立ち上げてどのようなスタンスで臨むのかを聞きたい。

：景気が悪く予算も取りにくい中ではあるが、今回、市民や学校への調査も行ったこのタイミングで、間髪入れずに文化行政に注力することを宣言してほしい。例えば、市の広報で文化への背中を押す文言がほしい。例えば退職後、妻に誘われて合唱団に入ったが、すっかりはまり一生歌いたいと思っている、富田林に転居してきて初めはわからなかったが、今はこんなことをしている、友人もできて楽しいです、など、生の声などが載っていると、見た人の背中を押すのではないか。この間は子どもがアンケート持って帰ってきたけど、広報にも載っているし、何かやりたいと思って探す場合、どこでどんなことをやっているのか、参加できるようなものがあるのかを調べるツールを準備していただきたい。予算がかからないレベルでできればいい。

委員長：財源やビジョン策定後の窓口などの質問については、休憩時間時に事務局で確認し、回答できることは回答する。

委員　：素案は素晴らしい内容だが、理想的で、全てを実現するのは難しいだろう。10 年後のビジョンとしてはそういうものだと思うが、行政としては取りこぼしがないようにと考えるかもしれない。しかし、ピンポイントで攻めていくことも大事ではないか。個人的には子育て支援と結び付けた取組をメインに進めてはどうか。尖らせる必要がある。

：隣町の大阪狭山市の美術協会委員をやっているが、最初に地域で活動するため、富田林市や狭山市の文化祭を見に行った。狭山市の方が絵画に

特化したしっかりした審査を行っているコンクールがあったので、そちらに参加した。富田林市の文化祭は誰でも参加できるが、ステップアップにつながらない印象を受けた。そのあたりがもったいない。部分的には難しいこともやってもいいのではないかと感じた。

委員長：今の意見はどのように読み替えれば良いか。ビジョンの難易度のことか、優先順位のことか、尖った内容を入れるべきということか。

委員　：大阪狭山市はまちが小さくまとまっており、絵画に特化している。富田林市は川を隔てて印象が違い、場所によって文化の色が違うと感じ、特徴がよくわからない。特化しているものがあり、それについてはレベルが高いことがわかると良いのではないか。

委員長：富田林ならではのことがあればということで理解した。

委員　：文化芸術については難しい取組をしなければならないと思うが、12/3 は市民劇場と障がい者キャンペーンの日だった。市民が参加すべき市民劇場、文化の集大成として実施したが、参加者が年々少なくなっている。市民の関心が薄れてきている。広報のやり方が少しお粗末なのではないか。市民が知らない。作品を作ることに携わり、舞踊会などをしても、市民が参加しなければ充実したものにならない。市民劇場は和太鼓がメインだったが、非常に感銘を受けた。もう少し広報や PR をしておかなければ、せっかく費用をかけてやっても無駄になるのではないか。これからも様々な催しをするとしても、充実したものにならないのではないか。きちんとした計画を立て、広報も育てていかないといけない。立派な計画を立てても、参加する人がいなければいけないのではないか。

委員長：このビジョンをしっかりと機能させるために、仕組みや情報発信、情報の探し方、財源や優先順位など、実現していくための具体的な手段、役割分担など、さらに独自性のある施策についての意見があった。今日はこれらの関心事について時間を取って話し合いたい。

２．第２回策定委員会の振り返り

事務局：（資料１・２　説明）

委員長：このような意見を踏まえての素案である。以上の説明内容に対し、捉え方が違うなどの意見はないか。

各委員：意見なし。

委員長：第２回目の議事録と振り返りについては、承認していただけたとのことで承った。

３．各種調査結果の報告

（１）富田林ミューラルプロジェクト報告

事務局：（資料３　説明）

委員長：説明について質問や意見はあるか。私からの質問だが、富田林の祭りや寺内町に子どものシールが多いのは、富田林の独自性を感じる。他ではない気がする。

事務局：寺内町は子どもが２つで残りは大人だが、祭りは大半が子どもたちである。話を聞くとお祭りは楽しいからとシールを貼っていた。寺内町については、川の西側にある金剛東中央公園で実施したため、よく知らないという大人の方が多かったことが印象に残った。

４．素案の検討（意見交換）

委員長：冒頭の皆さんのご意見では、窓口等の仕組みや情報発信、優先順位、財源、独自性などあったが、どの章に入れるべきかなど、見立てていただければ、どの章の話の際に意見すればいいのかがわかると思うので、事務局から説明してほしい。

事務局：（資料４ビジョン素案　説明）

委員長：今の説明で、どの章にかかわる意見かおおよその見当がついたと思うので、順を追って議論したい。第１章、第２章は前提部分になるが、第２章については気にされている方もあるかもしれないため、事務局から簡単に説明してほしい。

（１）本市の文化芸術を取り巻く現状（第２章）

事務局：（資料４ビジョン素案　第２章　説明）

委員長：文化資源や市の現状について、何か意見はあるか。

委員　：以前はすばるホールには課長が３名いたが、今は施設管理と事業の２本立てになっている。今後、すばるホールが受け皿になるのであれば、文化振興課が必要ではないか。施設管理の部署では対応できない。文化振興課がなければすばるホールに託すのは重いと思う。ないのなら、生涯学習課が引き取らなければならない。すばるホールは文化の殿堂になっている。そのような組織があるなら、第２章に文化事業団について記載することに納得できるが、ない状態では今後どうするのかと思う。

委員　：本来は文化振興課のような形で、すばるホールを市役所の一機能として動かすべきはないか。事業団の発足当初はそのような形だったと思うが、2003 年に指定管理者制度ができてから変わってきた。本来は非公募で事業団に委託すべきだが、公募になっている。当初は市がお願いして事業団が設立されたが、なぜ公募になるのか。そこがはっきりしないと文化は支えられない。

委員長：今は文化振興課がなく、生涯学習課がやっている。指定管理は本来のあるべき姿ではないという、違和感の意見が出た。これを第２章に記載すべきか、推進体制に入れるべきか。

：現状だけでなく、課題もあったほうが良いのではないか。人数が減っていることや担い手不足などの課題があったほうが、優先順位がつけられる。

委員　：市の足りていない部分が議論の中で多く出てきているが、第２章は現状の章になるため、第２章の第３節として課題の項目を追加してもいい。

委員　：最初に読んだときにも思ったが、レポートとしては素晴らしいが、問題や結論を持ってきて欲しい。順番に読んでいて、結論までいかない印象がある。最初に課題を見せたほうが分かりやすい。

委員長：皆さんの意見を聞き、課題を入れてもいいと思う。第２章には、窓口や事業団の書きぶりかもしれないが、最初に問題提起があり、最後にそれに対する結論や方向性が示される形にしてはどうか。

：文化資源が高齢化していることも課題かもしれない。

委員　：すばるホールに限っても、文化芸術に関心を持つという表現はそのとおりだが、具体論が入っていない。例えば、広報だけに頼ってはいけない。校区福祉委員会では４年前まで祭りをやっていた。2,000 名という人数を集めたが、市の広報は１度も使わず、独自に近所の自治会等にお願いする等、様々な広報をしなければ周知徹底できない。今の市の広報はさっと読んでも頭に入っていない方が多い。広報は月に１回しか入ってこないし、字が小さいなどいろいろある。読んでいても頭を通り過ぎるような表現だ。富田林市の福祉協会の会員募集を 10 月号で初めて掲載してもらったが、それまでは任意団体の募集広告はしないと断られてきた。しかしながら、福祉委員会に入ることを促す 3～4 行の案内を載せていただいたが、市の広報を見て応募を受け付けたものは 1 件もない。掲載されても意味がない状態だ。市の広報だけに頼るだけでは、周知徹底にはつながらない。

委員長：SNS も発達しており、受け取り方も多様になっているので、そこも課題である。

：将来像や基本方針に進む前に、問題点をしっかり出すべきではないか。ミューラルプロジェクトなどが方向性になっていると思うが、最後のリーディングプロジェクトに至った理由が、行政としては課題なのではないか。少し事務局から説明していただき、どこに課題や優先順位があるのか、他にもある課題などについて、意見をいただきたい。

事務局：（資料４ビジョン素案　第５章　説明）

委員長：今の説明はねらいの整理だ。そうではなく、現状の課題を出してもらえないか。

事務局：「ふれる」について、文化というとすばるホールだけでやっていると思われている。文化の発信拠点としてすばるホールがあることは大前提だが、すばるホール以外のいろいろなところで文化事業をしていることを意識したい。美術関係ではまちかどミュージアムとして、公共施設や商業施設で絵画作品の展示を行っているが、絵画だけでなく音楽や

演劇も含めた体験を、市内の様々な場所でできるということを入れたい。

:「つなげる」については、人権の観点、福祉の観点、観光の観点について、文化の色付けを足すことによって、他の事業につなげていくことを課題としている。

:「そだてる」については、子ども以外の面もあるが、子どもが中心である。子どもを育てる過程で文化芸術がどれだけ重要性を持っているか。学校教育だけでは難しい中、社会教育の側面から文化芸術の力を借りて、子どもを育てていくことを課題としている。

委員長:国は社会包摂の方向性を示しているが、富田林市としては実現に至っていないという認識で、人権・福祉・観光などにつなげると考えたということか。また、子どもについても生涯学習部が担っているため、文化芸術をしっかり教育現場に活かしたいということ。そして、すばるホールに集客することに集中していたため、施策として変更したいという課題感があって、ここに至ったということで理解した。

:例えば、仕組みや情報発信について、指定管理者という立場では対等にものが言えないため、事業団に負担がかかるのではないかという心配があった。それらの課題について、意見があれば再度お願いしたい。

委員　:私も学校に文化を取り入れて欲しいとお願いしているが、なかなか受け入れ体制がない。校長会で言ってもらえないかとお願いしたが、強制できないとのことだった。大学でも「これで就職できるのか」と聞かれた。そのような状況の中で、教育委員会が担当しているこのビジョンでは、そのようなことをやってくれるのか。文化教室をやっていた学校があったが、道徳の時間が入り文化教室がなくなったと電話があった。本来は文化芸術を通じて心を豊かにすべきだ。市や教育委員会が率先して文化をやってくださいと言ってくれて、後ろ盾があるのであれば、やりやすくなるが、ネックは教育委員会と市だと思うので、そのあたりはどうか。

委員長:問題提起として、体制や仕組みを整えて欲しいというご意見と理解した。現場の声などもいただけないか。

委員　:文化芸術と多文化共生があまり結びついていない。国際協会の取組も、どのようにつなげていくかのビジョンがなく、現時点は遠い印象だ。そのようなテーマを意識しながら、文化芸術を広めていく取組を始めることがスタートだ。芸術は関係ないと思う方が多いが、そこを意識した市の施策もほしい。

:直接関係があるか分からないが、文化資源は形があるものとして事業団や文化団体が出ているが、個別に活動している人も多い。目に見えていない活動であり、そうした人がいるから裾野が広がっている。そうした方への財政や情報発信などの支援もあると良いのではないか。既存団

体だけでなく、個別に市民活動をやっているところにも恩恵があれば良い。

：学校教育で文化芸術に触れることは大切だが、学校も文化というだけで外部講師を呼べるのか。カリキュラムで分野が決まっており、３年生の教科書に出てくる３年峠という韓国の民話があり、ある小学校では韓国の講師を呼んでワークショップを実施している。そのような連携はできるだろう。

委員長：図工や総合の時間ではなく、国語の時間でもそのような連携ができるという意見だ。

委員　：小学校では室町時代の勉強で文化芸術を取り入れてくれている学校もある。

：国際協会にチケットを届けたことがあるが、富田林市に住んでいる外国人の方は仕事と日本語をマスターするのに精一杯というご意見をいただいた。

＜休憩＞

委員長：第３章の検討に進む前に、事務局から財源に関する説明をする。

事務局：文化事業も市予算で取り組むものであり、生涯学習課が予算要求・査定を受けて決まる。その中で、本市には文化振興基金がある。竹下内閣時にふるさと創生として１億円が全市町村に配られたが、本市ではこれを文化振興基金として条例を制定し積み立てた。文化振興以外では使えない基金であり、生涯学習課がこの基金を使う権限を持っている。現在、30 年が経過したが、これで国債等を購入し、利息を運用してきたため、まだ１億円が残っている。これを財源として有効利用したい。

：機構上の推進体制の問題については、文化振興課という担当課があればということは我々も考えているが、市の機構上の問題だ。この場で設立するとは言えないが、このビジョンを推進するために、事業団に丸投げするのではなく、市として推進体制を作ってほしいという意見は尤もであり、今後 10 年間の計画を立てるため、そのような部署の新設要望はしていきたい。

：文化振興事業団の位置付けについては、おっしゃるとおり、30 数年前にすばるホールができた際に、同時に市がお金を出して設立したものだ。当時は市の文化振興事業を担う外郭団体と位置づけていた。ただ、その後に指定管理制度ができ、そこで話がややこしくなっているのが現状だ。当時は非公募だったが、時流の関係で非公募を継続することが難しくなり、公募となっている。文化振興をこれから続けていくにあたり、公募が１つの課題になっているのは間違いなく、そのような意見がまとまるのであれば、ビジョンに課題として記載することも可能だ。

委員長：このような委員会でこのような回答が返ってくることは少ない中で、すぐに回答いただきありがたい。
委員　：文化振興基金の１億円について、元本そのものの取り崩しはできるのか。
事務局：元本を取り崩しできるように条例改正している。今は利息部分を運用している。
委員長：基金を活用してくことを記載できるのか。
事務局：可能だ。
委員長：指定管理者を公募から非公募に切り替えるには、この事業団が富田林市の文化振興にとって重要だということを、文化振興に関わらない方にも説明できることが重要だ。今後の 10 年間にそのような活動ができれば、非公募や特定に戻すことも可能ではないか。事業団に負担がかかることは避けたいが、このビジョンで後ろ盾ができ、財源もあるのでできるようなことを目指したい。
委員　：どうして非公募では駄目で、公募になるのか。
事務局：難しい質問だ。時流としか言えない。全体的には非公募になっている。
委員　：非公募の団体もある。
事務局：数は減ってきている。
委員　：数は少なくても、非公募はある。
委員長：非常に難しい。
委員　：文化事業団は公園も公会堂も他も手放しており、現在はすばるホールくらいだ。
委員長：民間委託する中で課題も噴出しており、文化振興は長期的なビジョンが必要だという観点から課題としてビジョンに記載し、文化芸術と多文化共生などを手掛けていきたいなど、そのような物語を冒頭にかけると良いのではないか。

（２）将来像と基本方針（第３章）

事務局：（資料４ビジョン素案　第３章　説明）
委員長：意見はあるか。
委員　：主語の話だが、市民が主体のままで良いのではないか。行政を主体にすると違和感がある。
：9 ページのポンチ絵については、3 つの要素の矢印は相互になるのではないか。そだてる、つなげるも起点になりうる。
：たき火については唐突感はあるが、説明を聞くと納得感がある。10 年後のめざす姿が全てたき火の説明になっており、たき火とは文化芸術を指すといった注釈があったほうが良いのではないか。
委員長：主語を市民にすることと、図に関しては相互関係にあるということ。また、たき火で説明しているが、たき火が何かという解説が欲しい。
委員　：富田林市では「きらめき」という言葉がよく使われているが、「きらめく」も使えると良いのではないか。火ときらめきは似ており、そのあた

りの根本的な説明も含めて入れてはどうか。たき火の説明の中に、きらめきとのつながりも入れて、それを活用しながらたき火を説明してはどうか。

委員　：キャッチフレーズについては唐突な印象がある。「あっちにも、こっちにも。」という状況にはなって欲しいが、10 年後の着地点は漠然としている。確かにたき火の説明のところに、文化芸術はこのような役割を果たすという説明があるとつながるかもしれないが、ストレートな表現でもいいのかとも思う。

：基本方針のところで、２番目と３番目については「市民」がなくても良いのではないか。文化芸術活動は最終的には市民の熱意などでなされるものだが、このビジョンは市の方針になるものである。市民がそうなるように市が何をするかを記載してはどうか。タイトルが「市民が文化芸術をつなげる」とするのであれば、市民がそうなるために市が何をするべきかという視点で（２）と（３）は記載すべきだ。

委員長：役割分担に通じるところだ。

委員　：目線はおっしゃるとおりだ。外からの視点だと、文化芸術は既に出来上がっているものではなく、文化芸術は進化していくものだ。他所から見て、富田林の文化芸術を見て「おもろい」とか「わくわくする」といった切り口が存在するのではないか。ありものの枠組みではなく、もう少し広い視点で見ることができないか。「ふれる」「つなげる」「そだてる」だが、外から見たときの視点が１つくらいは入ってもいいのではないか。よそ者からの刺激を受けて取り組むような開かれた視点のキーワードがあっても良いのではないか。

委員長：「ふれる」「つなげる」「そだてる」を通じて、どのような姿を目指すかという話だろう。

委員　：守っていかなければならない文化も当然あるが、外から見た時にワクワクしたものがなければ来ない。これまでの延長線上ではない視点も入れたほうが良いのではないか。

委員　：たき火は当初引っかかったが、７ページのところで、たき火が寒さを和らげたり心を温めたりというのはそのとおりだが、２番目ののれんわけや、３番目は抽象的だ。文化芸術が心を豊かにすることや、人生に潤いをもたらすという言葉のほうが本来の内容だ。

委員長：課題を２章で書けるのであれば、具体的な目標を記載できないか。すばるホール以外でも行われているような、数字まで記載できるか分からないが、例えば 10 年後に 10 箇所以上のまちかどで触れることができるとか、そのようなことを書かないと、主な施策にいけないのではないか。

委員　：他と比較することもないし、数字で示せることだけではないと思うが、現状が他と比較してどうなのか定性的で見えにくい。10 年後の姿についても、何か具体的にあったほうがはっきりする。

委員長：財源もあり、具体的に取り組めるのであれば、書いてもいいのではないか。
委員　：ぜひ入れてほしいのは、課題で富田林の独自の課題があり、将来像では富田林市だからこその将来像をしっかりと入れて欲しい。
委員　：歴史も何も知らないのだから、まずは基礎をつくるべきだ。そのうえで富田林の良いところや弱点を考え、未来につなげていくべきだ。逼迫した歴史がないことが富田林の歴史の難しさだ。
委員長：文化は地元を好きになるということにつながる。アンケートをとると、お祭りや寺内町が好きだという結果も出ている。地元愛や土地への愛着が形成されるので、地元の資源を活かしてまちなかでやっていくということにもつながるのではないか。
委員　：活動しているらしいという情報があっても、確実な情報を収集できる場所がない。ここに聞けば分かる、ここに行けば見られるというものがあると良い。
委員長：まちなかへ展開する一方で、センターとしてのすばるホールの役割がしっかりすべきかもしれない。
委員　：田舎での広報は、市役所がマイクを持って回っているが、富田林市はそこまでの田舎ではないのでできないが。
委員　：郷土愛もそうだが、他市との比較が重要だ。郷土という点で深掘りすることも大事だが、他のまちでは実施していない文化振興に取り組むことも大切だ。そのためには次の章が重要だ。
委員長：具体的にどうするかという点だ。

（３）主な施策・取り組み（第４章）

事務局：（資料４ビジョン素案　第４章　説明）
委員長：情報収集ができていないことなど、ご意見があればお願いしたい。
委員　：14 ページについては、文化振興事業団の動きをよく知らないのではないか。出前授業のようなこともやっている。学校が躊躇するような取組も事業団が率先してやっている。
委員長：アウトリーチ活動を文化事業団が実施しているが、実施していることが知られていない。見える化が必要だ。
委員　：こうした取組について、指定管理者が公募されてしまうと、アウトリーチ活動のスタッフを入れられなくなる。メリット、デメリットもあるだろうが、民間企業は熱意が足りないのでないか。
委員長：大阪府の江之子島文化芸術創造センターは、この 4 月に指定管理者が吉本興業に変わったが、スタッフがバッサリと交代になったため、近隣自治体がどのようになるのか見ている。
委員　：富田林市のオリジナリティも公募要件に入っているはずだ。すばるホールと文化振興事業団は切っても切れない関係であることを伝えるべき

だ。吉本興業は奈良などこの周辺でもいくつか入っているが、給料含めて条件がかなり厳しくなる。

委員長：例えば、多様な情報の収集・発信のところに入れるべきか、アウトリーチの現状の課題として入れるべきか。やっているが上手くいっていない要因なども記載し、それに取り組むような書き方もある。

委員　：特に学校や幼稚園については、文化事業団がよくやっている。学校が連れて行くのに大変だと言っているものは無料招待をしているが、その財政負担は事業団が負っている。

委員長：学校側の受け入れ体制などの課題感を明記し、この 10 年間で改善していくことが記載されると良い。

委員　：富田林市のオリジナリティを入れたら良い。

委員　：学校が受け入れる、受け入れないといった現状を教えてほしい。

委員　：伝統文化親子教室を花柳委員がやっている。

委員　：伝統文化親子教室は文化庁の助成で取り組んでおり、例えばプラネタリウムの見学などは、本来なら市が学校に助成して連れていくものだと思う。コロナ禍でホールに行きづらい状態もある。

委員　：数年前に学校教育にダンスが入ったが、学校の先生では対応できないため、市のダンス連盟に依頼があり、指導に行った経緯はある。

委員　：よさこいの取組も、狭山市で不登校の子どもたちのために始まったものだ。ちなみに狭山市では琴を市が所有しており、文化活動の際は市が貸し出している。

委員　：18 ページについては、文化振興基金やウェブサイトについての記載が中心だが、今やっていることを記載しており、これだけでは不足している。市長が市長懇談会を２回開催したが、１回目に出席した方に話を聞くと、合唱は様々なパートがあるが、分かれてパート取りをしたいが、公民館は１つしか会議室を貸してくれないという。そこを改善して欲しいという声を懇談会で話されており、その解決策が具体的に盛り込まれると良い。

：公民館では利用団体の団体登録をしていると思うが、代表者の個人情報を調べることで反社かどうかを判断できるが、富田林市の場合は市民が７割以上いないと公民館を利用できない。元々住んでいた人が引っ越す可能性もあるが、富田林市では杓子定規で判断されている。富田林市には川柳の大会があるが、川柳大会では柏原などの方が多く来られる。他市の人間が川柳協会に入ってよいのかと言われるが、質を高めていくためにはレベルの高いものを取り込むことで昇華されていくものである。そのことを第 2 回の懇談会で市長には伝えた。他にも、小学校の空き教室の利活用についても意見があった。そのあたりの検討について記載してはどうか。

委員長：人口増の時代には、そのような制限をすることで利用の権利を守ったかもしれないが、人口減少時代には解釈を変えていくことが必要だろう。

委員　：市長が呼びかけて集まった方々の意見であり、その答えは入れるべきではないか。

委員長：一委員としての意見だが、富田林独自の施策は難しいと思っていた。現場レベルのヒアリング等を実施しており、ビジョンの中に現場の課題が記載されていると、市民の声を拾いながら取り組んだことを見せることが出来る。記載するとやらざるを得ないため記載しにくいが、そうやって富田林のまちができていくのであれば、検証もしやすいのではないか。

委員　：アンケートでは、この5年間に文化活動をしている方が3割というが、これをいつまでに5割にするといった目標数値があると良い。

委員長：コラムも良いが、ヒアリングやアンケート等の市民の声も見えると良い。

委員　：この章は違和感がある。今後の施策が記載されているはずだが、現状の取組を少しだけボリュームアップしているだけだ。せっかくこれを作っているにもかかわらず、もったいない。具体的に記載があるのは、13ページに「（仮称）文化人登録派遣」といったことだ。全ての項目において、今後の新規の取組も記載できないか。

委員長：継続事業や新規事業の整理は必要だ。

委員　：オンリーワンはどこに当てはまるのか。つなげるやそだてるも良いが。どこかに盛り込めないか。今、あまり目立たないのであれば、つくっていく意思をどこかに記載してもいい。

委員　：個人的にはまちかどミュージアムについては、そこまでの高額予算ではないと思うが、つなげることも広げることもできる。現状は11箇所ということだが、これらを広げていき、身近に文化芸術があると富田林市は素敵だなと思う。今取り組んでいることがこれだけで、意義があるのでもっと進めていくという表現だとメリハリがついて良い。上の現状と下の施策が重複しているところもある。文章ではなく、もう少し分類して、分かりやすくした形で表現されると良いのではないか。

：文化振興基金については、これまでは周年事業の際にしか活用できず、使い勝手が悪かった。しかし、ビジョンを見ると、1億円を取り崩してでも使っていきたいということであり、これまでと違うと感じた。1億円という数字が入るか分からないが、新しい使い方を説明できると良いのではないか。

：19ページでは、地域の受け皿としての習い事のことが記載されているが、どのような事業をイメージしているのか。

事務局：新規事業として考えているが、絵画や楽器、書道、日本舞踊も含めて、子どもたちの幅広い習い事について、アンケートでも子どもたちの習い事や経費がかかっているかを聞いたが、文化的格差を解消していきたい。これを市が補助していくことを考えている。

委員　：一人当たりいくら程度、何名くらい、何年くらいか。

事務局：例えば小学５年生などの１学年を対象に、調べている範囲では 300～500 名くらいを考えている。経費は文化振興基金を使いたいが、いくら補助するかで継続年数も変わるため、これから検討する。

委員　：骨子案にも記載があったが、違和感がある。習い事についてはスポーツも含まれると思う。各家庭の習い事を支援することには違和感がある。我々がイメージしている文化芸術と、スポーツも含めた文化芸術はどこで線が切れるのか。

事務局：スポーツは外したいが、難しいのはそろばんやパソコンだ。分かりやすい表現として習い事と言っているが、一方で文化と表現すると、文化の範囲全てが対象となるため、今は習い事という表現をしている。ではダンスは文化に入るのか、スポーツに入るかは難しく、不確定だ。

委員長：まだ出ていないことなどがなければ、今の意見を全体に入れられれば良い。

委員長：山本副委員長と協議したことをお伝えしたい。3 章、4 章について、「ふれる」「つなげる」「そだてる」という流れだが、「ふれる」の内容はどの自治体でも記載されていることだ。最初に新規事業をやっていこうとしているため、「そだてる」を一番前に移動し、「そだてる」「ふれる」「つなげる」という順番のほうが、富田林が力を入れるところがわかりやすいのではないか。

：さらにもう１点は、9 ページに「ふれる」「つなげる」「そだてる」が図化されているが、文化芸術がまちや子どもをそだてる、文化芸術で人々が触れ合っている、まちの歴史に触れている、文化芸術が人と人をつなげる、ということではなにか。文化芸術を媒介、媒体とした表現のほうが、いま私達が話し合っている内容に相応しいのではないか。

委員　：良いのではないか。単純に触れるという流れは分かりやすいが、触れるためにはものがないといけない。指導者のように育てている方がいて、初めて活動に触れることができる。

委員　：市民が文化を生む、ということで良いのではないか。「ふれる」「つなげる」「そだてる」といったことを総合して、大きなキャッチフレーズとして、「市民が文化を生む」というのが良いのでないか。文化芸術ではなく、文化を生む。

委員長：第４章の流れについて、それでは「そだてる」から始めていただきたい。

委員　：ここで会議をしているが、ここで温度が上がっても、それが波及しないといけない。ここに公民館の担当者がいれば、その熱を公民館にも広げてもらいやすかった。本当は当事者としてここに入ってほしかった。

：大阪狭山市はこじんまりとまとまっているということだが、富田林市は川の東側、川のこのあたり、そして羽曳野丘陵を越えた金剛団地等で、まちとして色合いが異なる。それぞれの場所で活動している方もおり、地域を横断している方もいれば、その地域だけで活動しているところもある。富田林市はそのあたりをうまく考慮し、３つの公民館を配置し

ており、公民館それぞれで50程度の団体と取りまとめている方がいる。ビジョンを広げていくためには、公民館のそのような方に関わっていただく必要があり、この委員会に委員として入らないのであれば、別の方法を考えてもらいたい。

委員長：ビジョン策定時に現場の声を聞く機会が少ない。機会の拡充というのであれば、定期的に市民の声を拾い上げていくことを考えたい。

：エリアによって色合いが異なるということについて、どこかに当てはまりそうか。

委員　：先日の金剛東公園でのイベントを見ると、各地域に自慢の場所があって良かった。

委員長：機会なのか環境なのか、どちらかを活かして地域の個性を出すということか。

委員　：市長懇談会には、河内音頭保存会の方が多かった。

委員長：機会の拡充のところに入れておきたい。

委員　：「ふれる」「つなげる」「そだてる」が相互に作用していることが分かるのは 9 ページの図だった。まちかどミュージアムは設置して終わるのではもったいなく、13 ページの文化人登録派遣のメンバーがまちかどミュージアムに参画して、例えば学校現場で見える化し、外部講師がアート作品を元に授業を展開するような流れがあると、「ふれる」「つなげる」「そだてる」が相互作用して循環するのではないか。

委員長：4章が終わった後に、それぞれが相互作用するとどうなるかを表現できると良いか。それぞれが関わっていることをそれぞれのページに入れたほうがいいか。

委員　：それぞれのページに入れられるなら入れてほしい。

委員　：第5章にもつながるかもしれないが、ミューラルプロジェクトに私も参加したが、素晴らしい企画で、見えて広がる良いイベントだった。こうした企画を毎年実施しないと意味がない。子どもたちが壁面に絵を描いていたが、中途半端な状況だった。こうしたことを継続すべきだ。

：公園はイオンのエコールロゼまでつながるが、壁面がまだ残っているし、エコールロゼの壁面も汚れており、そのあたりも毎年描いていけると面白い。さらに、そこに彫刻や他のものも増えていくと面白いし、市内の錦織公園という子どもたちが多く使っている公園にも彫刻を置くなど、広がっていくと良い。

委員長：毎年実施すれば10年経つと景色が変わっているかもしれない。

委員　：ビジョンを10年スパンでつくるが、実施計画はつくるのか。

事務局：進捗状況をチェックできるシートを作成し、毎年評価していきたい。

委員　：そうなると、ここに具体的な内容を盛り込まないといけないということか。

事務局：そのとおりだ。

委員　：13ページの取り組みイメージの最後のところに、「文化芸術を活用した連携・協働事例について、市ホームページや紙媒体等で情報発信を行う」と書かれ、市民がつながっているものを市が発信するとあるが、市庁内でも、例えば子育て支援と絵画教室をつなげるような事業に取り組む発想が必要だ。市が情報発信するだけでなく、市庁内でつながることが重要だ。伊丹市では健康ウォークという取組があるが、歩いた距離でポイントがもらえ、また歩いたことで健康が維持されるため、浮いた医療予算を書籍購入に回している。そのような発想があると面白い。生駒市でも市民に聞いて、この分野に税金を使って欲しいという声を集め、意見の割合で予算配分を行っている。このような市が発想して実施することをこの中に書いてほしい。

委員長：今の話は16ページの社会価値への波及に近い。いろいろなジャンルへ波及するため、庁内連携を進めることで、社会的価値への波及にもつながりそうだ。

：中野委員の発言を聞いて思いついたが、ミューラルプロジェクトについて、今年は東、来年は西といった形で、地域ごとの個性が見える場所や表現ができると面白い。1つのまちだがいろいろな文化があることを残せるのではないか。

：情報発信については、ここに行ったらわかる、窓口はここだというそういうものがあるといい。すばるホールを富田林の文化の拠点にするという話だった。

委員　：国立病院があり、地域にクリニックがあるようなイメージだ。

委員長：分かりやすい説明だ。

委員　：情報発信については、市民にだけでなく、市外の人にもどこに行けば分かるのかという視点も必要だ。外部からの視点が薄い。

委員　：ホールになると、近隣ホールとのやり取りもあり、情報は地域外へも広がる。

委員　：その場所だけでなく、見せ方、やり方の工夫も含めた情報発信と理解している。

委員長：伊丹市の文化財団にいた際には、河内長野等の周辺では連携した事業を実施しており、羨ましかった。それを上手く発信し人の行き来が生まれると良い。そうなると循環ができる。

委員　：東と金剛と中央で地域色が違うが、それは歴史による。東は農耕であり、金剛は元々たぬきが出そうなところを急開拓したまちであり、発想も若く動きも早い。はっきりとした歴史の関係性を打ち出すべきだ。

委員　：章が違うが、6ページに実行委員会形式でいろいろと記載されているが、こうした方々が実行委員会形式で多数取り組んでおり、情報発信につながるはずだ。情報発信のルートに載せるためには、誰かが実行委員会に対して窓口となる必要がある。すばるホールか生涯学習課か分からないが、どこかの部署が各実行委員会とつながっている必要がある。

：私は 42 年前に大学でたそがれコンサートを開催した。あの時、富田林市は市役所前でたそがれコンサートを開催していたが、大阪市の市民楽団が出演していた。そのような形ではなく、地域の方が演奏したほうが良いと思い提案し、翌年から 20 年ほど続けた。今はどこが窓口になるのか。当初は社会教育課に行き、場所は体育青少年課だったためそこに頼みに行ったが、18 時以降は公園課の担当に変わると言われ、電気は体育館から借りるというとそれは青少年課だと言われた。学生時代にあちこちの課を回り、地元商店街で寄付を募った。今はきらめき創造館ができ、青年会議など若者への支援が一括して出来るようになったが、実行委員会が初めに誰に相談すれば物事が進むのか、窓口になるところが分かると良い。

委員長：情報発信をするのであれば、相談窓口が欲しいということだ。

：「つなげる」のところについて、もう少しご意見をいただきたい。

事業団：6 ページの話題について、文化事業の中には文化事業団の取組がほとんど含まれていない。この並び方だと文化事業が文化事業団の取組と誤解されかねない。一方、第４章では文化事業団の取組が６～７つ含まれているが、第６章では文化事業団という言葉がなくなり、23 ページでは指定管理者という表現になってしまい、成果だけが取り上げられている印象がある。

委員長：公募のため、10 年後に変わるかもしれないという意図かもしれない。事例として第４章で挙げている事業はどこがやっているかを明記すれば、文化事業団の実績もわかる。

事業団：各自治体でそれぞれの書き方がされており、検討いただきたい。河内長野市では明記されている。

：9 ページの図はホール関係ではよく使う図であり、文化事業団の提案書では 9 つくらいのサークルで表現しており、それの簡易版と認識している。市民が主役だが、これらを回していく組織主体が必要であり、配慮してほしい。

委員長：勝手に放っておいても循環する訳ではない。循環させる担い手などの明記が必要との意見だ。

事業団：7 ページのたき火のところは再考されるということで良いか。

委員長：悪くはないが唐突感があるということで、再考されると考えている。

事業団：文化振興という立場で考えると、冬場は暖かくて良いが、夏場は熱く、季節限定のものだ。また、現在は火を使える場所も少なくなっているため、広げていっていいものなのかと感じる。木をくべていかないと火が消えてしまうものであり、文化のイメージには合っているのかもしれないが、広げていくイメージが飛び火のようになるのはいいのか。

委員長：ご意見として受け止めたい。キャッチコピーとしては良いかもしれないが、もっとストレートに表現したほうが良い。再考してもらいたい。

：6 ページの文化事業について、誤解を招くということだが、どのように記載すべきか。

事業団：文化事業団の説明の後に文化事業を説明されると、誤解を与えるのではないか。

委員長：ご意見として頂戴する。この流れになるかもしれないが、事務局で検討する。文化事業団が取り組んできた内容を記載しているが、指定管理者を変更すると、このままの中身では謳えなくなる。

委員長：それを継続することを公募条件にすれば続けられる。

事業団：14 ページのピティナ・ピアノステップ事業は、事業団の職員が事務局長になって事務局を立ち上げて運営しており、指定管理者が変わってできる事業ではない。

委員長：今までのご意見も踏まえ、現状の課題やこうすべきという提案があれば、各項目に入れてもらう。それぞれのページごとに新規／継続、目標感、課題、相互作用の循環例などのストーリーを入れてほしい。

：また、事例の主体や主催の記載も検討してほしい。

（４）リーディングプロジェクト（第５章）

委員長：ここも「そだてる」を先に出したほうが、富田林感が出るのではないか。「子どもと未来プロジェクト」が初めに来て、次に共生社会に言及したほうが、時代の流れにも合い、富田林市の現状にも即している。

委員　：21 ページの⑤の市民文化祭のまちなかへの展開について、「「（仮称）富田林まちなか市民文化祭」へと展開していきます」と言い切っているが、文化団体協議会では一切議論されていない。文化団体協議会としては、ビジョン策定をしているのは知っており、自分から皆さんに報告するつもりだが、現状では話し合いをしていないため、一人歩きをするのはまずい。

委員長：その機運を高めたいなら、プロセスとしての対話が必要との意見だ。

委員　：20 ページの「文化芸術をそだてる」には、具体的なことが書かれていない。「子どもと未来プロジェクト」との記載があるが、具体化しなければならない。子どもに関連する話は学校関係に入っていただく必要があり、例えば教育委員会が推奨していく等、背中を押す形があると良いが、市はどのような枠組みで進めるのか。

：全ての子に平等に届けたいのは分かるが、やりたくない子どももいる。体験等、機会を与えることはすべきだが、機会もなくやらせるのは逆効果にもなる。まずは体験型を増やしていくことが大切だ。

：まずは知ってほしいと思うが、名乗りをあげてこないことが課題。

委員長：間口や裾野を広げたり、敷居を低くしたりすることで、参加できる機会を増やすほうが良いということか。

委員　：市も教育委員会もバリアフリーであるべきだ。

：事業団が活動している内容をそのままコピーしている状態だ。どこが何をしているのかが伝わらないため、富田林がやっているように見える。一方で、第６章の体制では、事業団ではなく指定管理者と記載されている。事業の内容を明記するなら、どこが実施しているかを記載したほうが良い。

委員　：22 ページの共生社会プロジェクトについて、（１）めざす姿の中に多文化共生と人権という文言を入れてほしい。

：また、第６章のビジョンの推進体制に、協働という言葉が出て来ない。連携と協働の違いはあるが、連携は距離が遠く、必要なところだけ一緒に取り組むイメージだが、今後 10 年を考えると、協働が必要ではないか。文章や図には連携とあるが、協働という部分を入れてほしい。

委員長：22 ページの（２）主な取り組みイメージが、一方通行のように思った。社会包摂なら、障害をもった方の文化芸術活動を表に出すことも出来るだろう。共生社会であれば、いろんな方々との対話の機会を持ってほしいということが、ここに当てはまるのではないか。

：行政 vs 市民になりがちだが、これからの行政は対話をするというスタンスを入れてほしい。

：市には要望があり、指定管理者と対話をして方向性を決めた事業を行うイメージを持っていたが、少し誤解を与える記載になっているのか。

（５）ビジョンの推進に向けて（第６章）

委員　：事業団の理事をやっていたことがあるが、このビジョンの策定は市が前面に出ており、やはり連携すべきはすばるホールの指定管理者だ。これはセンシティブな話であり、策定委員会で触らないほうがいい。

委員　：富田林市が文化関係で指定管理者を公募しているのはすばるホールだけか。

事務局：すばるホールだけだ。市民会館は文化施設ではなく集会施設になる。文化事業は自主事業としてやっており、市から委託しているわけではない。

（６）ビジョン素案全体に対するご意見のまとめ

委員長：第２章については、現状だけでなく課題も入れてはどうかという意見があった。行政の窓口の新設や、指定管理者と市の関係に関しても意見が出た。文化施設以外での触れる機会や、多文化共生とのつながり、受け入れ態勢の不備や横断的な事業についての話が出た。

：第３章では、たき火が少し抽象的な表現であり、ストレートな表現に変更したほうがいいとの意見があった。

：また、ゴールの書き方については、富田林独自の記述ができればいい。子どもを育てることを前面に出しても良い。それを通じて市民が文化を

生むという流れになった。文化芸術で人々が触れ合うという表現の方がいいというご意見もあった。

: 第４章も順序として、「そだてる」「つなげる」「ふれる」の方が富田林らしいのではと思うので、検討してほしい。

: 全体を通じて、新規／継続の明記、課題感、相互作用がわかるような図や事例、どこが実施している事業なのかを明記することなどもあった。情報発信については、発信だけでなく相談窓口も含めた担当が必要なこと。つなげることについては、アウトリーチの課題、庁内での部署間の連携なども記載できれば良い。

: ミューラルプロジェクトは継続してはどうか。行政の支援の在り方や仕組みついては第５章に入れるのか、第３、４章に入れるのかはバランスを見てほしい。

: 第６章はあまり触らないほうがいいとのことだが、協働の場をつくることには言及してほしい。

: 文化振興基金があることも記載してほしい。

委員　: 文化振興基金の話はあまり公開しない方がいいのではないか。

事務局 : 条例で明らかになっているので、問題になることはない。文化振興の中で使うことは決まっている。

委員長 : 財源の話は先に記載したほうがいい。今まで使わずにきたが、文化芸術で市のまちづくりに寄与することはいいことだと思う。

５．今後について

（１）平田オリザ氏講演会について

事務局 : 平田オリザさんの講演会については自由参加になるため、委員報酬等は発生しないが、ぜひお越しいただきたい。生涯学習課に連絡してほしい。

（２）パブリックコメントについて

事務局 : 状況が変わって延期になった。次回の会議と議会が終わった４月頃に実施される予定。

（３）第４回策定委員会について

事務局 : ２月頃を想定している。それまでに素案について事務局や庁内で検討する。

（４）事業団からのイベント紹介

事業団 :（チラシ等　説明）

以上